

第 79 回大腸癌研究会（当番世話人：奥野清隆教授）

『内視鏡摘除後大腸 SM 癌の転移・再発に関する多施設共同研究』プロジェクト研究・委員会議事録

日時：2013（平成 25）年 7 月 5 日（木），14：00～15：00

場所：梅田スカイビル タワーウェスト A 会議室

出席者（順不同）：斉藤裕輔（市立旭川病院，委員長），石川秀樹（石川消化器内科），五十嵐正広（癌研有明病院），飯石浩康，竹内洋司（大阪府立成人病センター）小林清典（北里大学東病院），井上雄志（東京女子医大），山野泰穂，檜森亮吾（秋田赤十字病院），斉藤 豊（国立がん研究センター中央病院），池松弘朗（国立がん研究センター東病院），和田祥城（東京医科歯科大学），一政克明，宮地英行（昭和大学横浜市北部病院），樫田博史（近畿大学），浦岡俊夫（慶応大学），田中潤一郎，須並英二（東京大学腫瘍外科），斉藤彰一（東京慈恵会医科大学），堀松高博（京都大学），武藤徹一郎，浦上尚之（がん研有明病院），堀田欣一（静岡県立静岡がんセンター），神藤英二（防衛医大），大倉康男（杏林大学），永田信二（広島市立安佐市民病院），岡 志郎（広島大学）

議題「内視鏡摘除後大腸 SM 癌の転移・再発に関する多施設共同研究 のアンケート」の現況について

■研究の目的・内容に関する説明（斉藤委員長）

- 1) 研究期間：2013 年 1 月～2015 年 1 月（2 年間）
- 2) プロジェクト委員および出席者のメールアドレス記載（メールが届いていない委員のメールアドレスの再確認）
- 3) 研究・調査方法の説明

■研究の途中経過（斉藤委員長）

平成 25 年 6 月 13 日時点、13 施設 25 例の報告のまとめ（別紙参照）

■研究・調査方法に関する各プロジェクト委員からの主な意見（順不動）

- ・ 吻合部再発は検討から外した方がよいのでは？（井上先生）
- ・ リンパ節転移再発と遠隔転移再発の取り扱いについて？（樫田先生）
- ・ どのようにして再発例を拾い上げるのが効率的か？がん登録のデータベースでは再発例の検索は難しい（竹内先生）
- ・ 今後、詳細な解析をする上で内視鏡摘除した SM 癌の総数を記載した方がよいのでは？追跡率についても記載を検討してはどうか？（石川先生） → 斉藤豊先生・池松先生より検索の仕方について意見を頂いた。
- ・ 全体の SM 癌症例がないバイアスのかかったデータでどのような解析を考えているのか？（樫

田先生) → 集計したデータを解析して検討する (斉藤委員長)

- 2008 年以降 (研究の調査期間は 2001 年から 2008 年) に再発した症例の取り扱いは? (宮地先生) → 検索できた再発症例はとりあえず報告して頂き, 取り扱いに関しては後日検討する (斉藤委員長)
- 病理医間の診断 (ly, v) の相違など, 病理の問題はどのように取り扱うか? → 重要症例に関してはプレパラートを中央判定 (味岡先生, 大倉先生, 藤盛先生) することも考慮。

斉藤委員長より, プロジェクト研究参加施設へ改めてアンケート集計をお願いして委員会は終了した。

■次回開催予定について

- 1) 調査内容の途中経過について進捗情報を報告予定 (2014 年 1 月 23 日 (木))。

以上

文責: 広島大学・岡 志郎